

藤沢市と廃食用油の資源化促進に関する 連携及び協力に関する協定締結について

2026年2月5日
藤沢市長定例記者会見

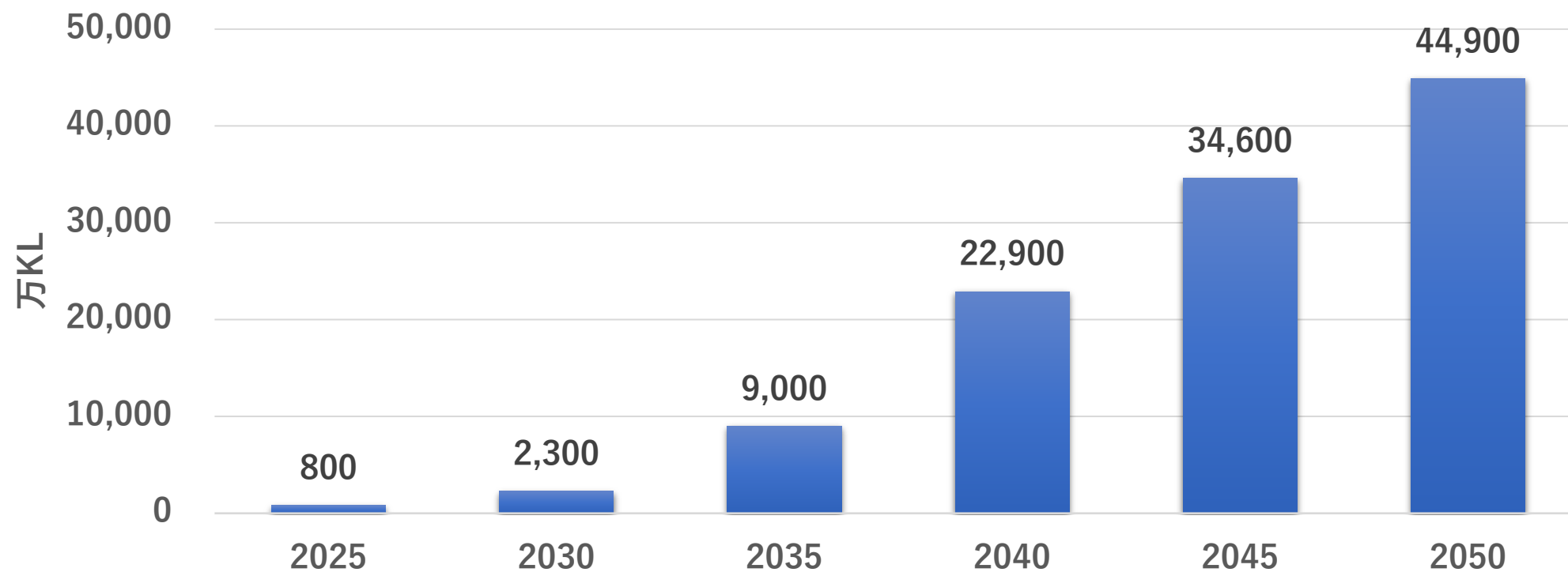


- 化石燃料以外を原料とする持続可能な航空燃料
- 様々な原料・製造技術が存在
- 従来の航空燃料と比べてライフサイクルでCO₂排出量を大幅に削減
- 既存のインフラ（航空機、貯蔵・給油設備など）が使用可能
- 中大型の航空機にはSAFが不可欠



SAFの原料の例

- SAFは航空セクターの脱炭素で中心的役割。世界各国で需要が高まっている
- EUは**2025年よりSAFの供給義務化**がスタート
- 日本政府も2030年に国内SAF10%供給の目標を設定
- 2022年時点の世界のSAF供給量は約30万KLとされ、需給ギャップが非常に大きい



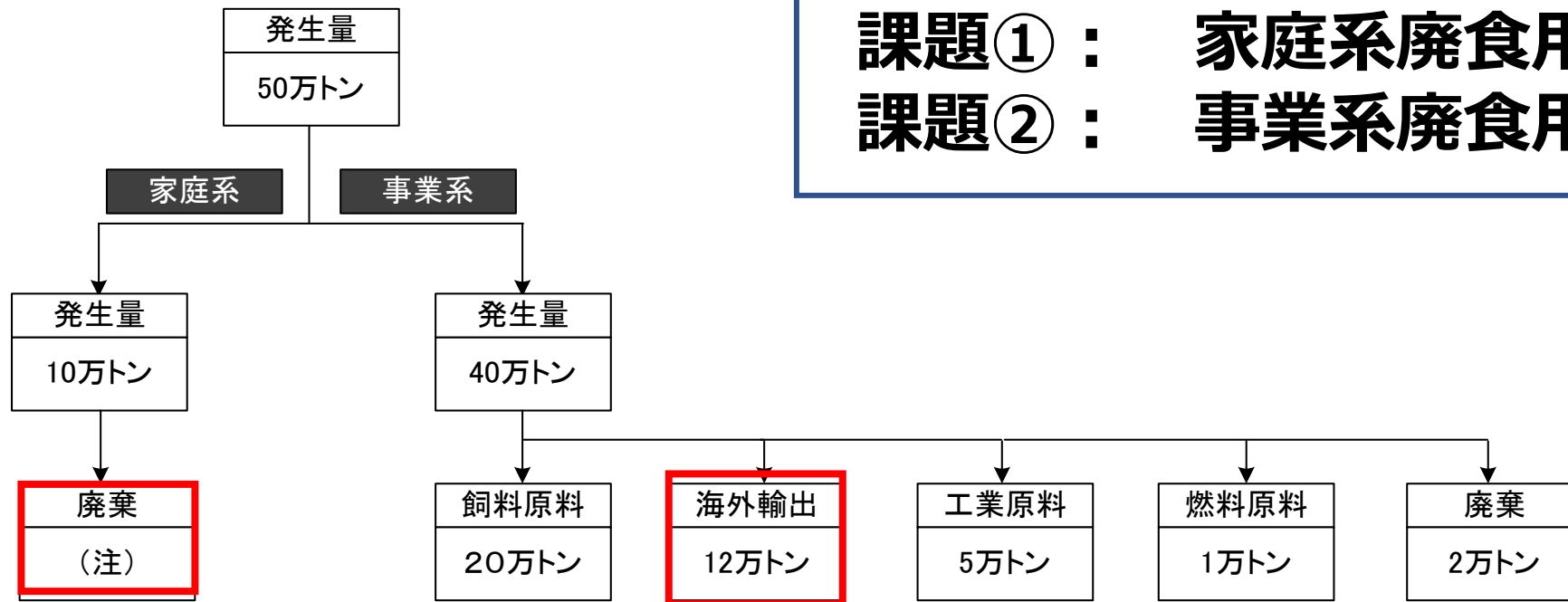
出典：IATA Net zero 2050 sustainable aviation fuelsを元に弊社作成

我が国初となるSAF製造事業



- 2021年、NEDOの助成事業に「国産廃食用油を原料とするSAF製造サプライチェーンモデルの構築」事業として採択
- 上記3社共同出資にて国産SAFの製造事業会社「SAFFAIRE SKY ENERGY (サファイアスカイエナジー)」を設立





課題①： 家庭系廃食用油の資源化
課題②： 事業系廃食用油の国内資源循環

注：9割以上は廃棄されていると言われている

トータル
20万トン以上



サファイアプロジェクト
の必要量3万トン



Photo by Tatsuya Tanaka

FRY oFLY Pr oject

Fry to Fly Projectとは
日揮ホールディングスが提唱、事務局を務める廃食用
油（資源循環）でSAFを製造（脱炭素化）を実現
するプロジェクト（参加団体数294）

Fry to Fly Project (2026年1月末時点294団体)





1

藤沢市

- 【家庭】 市民の方から家庭ごみとして廃食用油を回収し、SAF向けに提供
- 【その他】 SAFに関する資源循環の取組について、積極的に情報発信

2

レボインターナショナル

排出される廃食用油を収集し大阪府のSAF製造プラントへ運搬

3

SAFFAIRE SKY ENERGY

廃食用油を原料としてSAFを製造

4

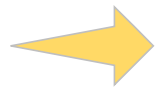
日揮ホールディングス

プロジェクト主導

JGC プロジェクト主導



家庭



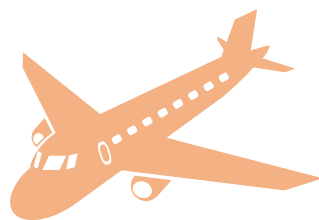
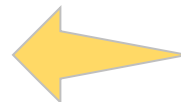
処理施設



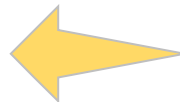
廃食用油引取・輸送



SAF製造



各航空会社



環境価値を重視する
インバウンドニーズに対応